

令和7年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	28	学校名	奈良南高等学校
----	----	-----	---------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	介護施設体験実習
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	総合的な探究(学習)の時間
連携・協働相手	美吉野園
地域と共有している目標・課題等	高齢者の介護や看護の在り方を理解する
取組・活動の内容(生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など)	
<p>本校では、総合的な探究の時間において、地域福祉に関する学びを深めるための実践的な活動を行っている。今回の取組では、教科の授業で看護について学んでいる2・3年生の看護コースの生徒が主体となり、地域の福祉施設である美吉野園と連携して学習を進めた。生徒たちは、事前に利用者の特性や高齢者との関わり方について調査し、自らレクリエーション内容の企画・準備を行うなど、主体的な姿勢で活動に臨んだ。</p>	

2. 事業の成果と課題

本事業では、美吉野園の協力を得て、生徒が企画した玉入れ、魚釣り、音楽を用いたゲーム等のレクリエーションを実施した。活動当日は、利用者の多くが積極的に参加され、笑顔や歓声が見られるなど、楽しい時間を共有することができた。生徒が工夫した声かけや補助も好評で、施設利用者の方々から「楽しかった」「元気をもらえた」など温かい感想をいただき、地域とともに学ぶ意義を実感する成果となった。また、生徒にとっても、教科で学んだ看護技術やコミュニケーションを実際の場面で生かす貴重な経験となり、職業意識や人と関わる力の向上につながった。

一方で課題も見られた。利用者の方々はそれぞれ障害や病気の状態が異なり、企画したレクリエーションがすべての参加者にとって等しく楽しめる内容とはならなかった場面もあった。中には、動作が難しく「できない」と感じられたり、活動に十分に参加できず「つまらない」と受け取られたりするケースもあった。これらの点から、生徒は、参加者の身体機能や認知特性に応じた難易度の調整や、個々に合わせた関わり方、補助方法など、より幅広い視点でレクリエーションを設計する必要性を学ぶことができた。

今後は、利用者の多様性により一層配慮し、誰もが参加しやすく、安心して楽しめる活動を検討していくことが課題である。本事業を通して明らかになった成果と課題を、次年度以降の地域連携学習の改善に生かしていく予定である。

